

令和6年度 第3回いずみおおつ健康食育計画推進委員会 議事録

日時：令和6年10月25日（金）13：30～15：00

場所：泉大津市立保健センター3階 集団指導室

開 会

- ・事務局より、会議成立の報告（17名中12名出席）
- ・事務局より、資料の確認

委員 長：8月の会議は書面開催になったが、今日は大事な案件が入っているので、よろしくお願ひしたい。

1. 第4次いずみおおつ健康食育計画素案の検討

- ・事務局より、資料「第4次いずみおおつ健康食育計画《概要版》案」及び資料「第4次いずみおおつ健康食育計画（素案）（～第2章）」について説明

（質疑応答）

委員 員：第2章の「身体に何らかの不調がある」の回答の年齢層はどのくらいなのか思ったが、24 ページ⑦「身体の具合が悪いところの有無」では壮年期～高齢期となっていた。市民全体ではその年代層を指したものと考えて良いのか。

事務局：年齢層が上がるにつれて、不調が出てくる。受診するほどではないが不調を抱えている人が多く、その未病状態を放置しておくとう疾病につながることもある。まずは気づきを与えるとともに、ちょっとした不調を放置しない取組も大切だと考えている。

委員 長：人口が減少していて、人口動態のところでは出生も減っているとあるが、これもグラフに入れていただくと人口も出生も減少していることがよく分かると思う。そこに何らかの対策も必要ではないか。高齢者の増加については説明があるが、片や出生も減っていることを入れないと、高齢者だけが強調されているように思う。

また、12 ページの《死因順位別死亡数の推移》の2022年は「悪性新生物」と「心疾患」がほぼ同じになっている。大抵「悪性新生物」が28%くらいで前後しているが、この年は「悪性新生物」より「心疾患」が多かったということか。ここがデータの的に気になったので、確認願ひたい。

それから、15 ページに「高血圧性疾患」が泉大津市では全国と比較してとても多いことを示したグラフがあるが、下の《特定健診有所見率（令和5年（2023年））》で「収縮期」や「拡張期」は全国と比較して少ない。ここは矛盾している。どう解釈すれば良いのか。

事務局：特定健診受診者は、既に薬を処方されている方が多いのだと思う。保健指導にかかってこないこともあるが、高血圧薬を服用されている方が多く、健診

では正常値で出るが既に高血圧の治療をしているので、医療費はかかっていることが多いのではないかと考えている。

委員長：理解した。

17 ページの子どもの肥満の状況について。他のものは全国・大阪府との比較があるが、肥満もできれば全国との比較があれば、泉大津市では肥満の子どもが多いかどうか分かると思う。

19 ページ～について。5 ページの①～⑤のアンケート回答者のうちの③④⑤の青年期・壮年期・高齢期はどれくらいの人数だったか、どこかで示しておいた方が良いのではないか。それと、市民と保護者をわざわざわけた理由は何か。保護者の中に青年期・壮年期がある。それと、青年期・壮年期の課題を保護者と別に出していくのか。課題を一緒に出すのであれば、ここで分割する必要はないのではないかなと思う。保護者も市民だし、その中に青年期・壮年期が入っているので、一括でも良いのではないと思うが。

それから、19 ページの「座ったり、寝転がったりして過ごす時間の1日平均時間」とは、睡眠時間も入っているのではないか。これは何を表して、どう解釈したら良いのか、教えてほしい。

事務局：全体の指標の部分では、保護者と市民を合体させたものになっている。確かに、保護者と市民をわけて青年期・壮年期・高齢期と示したために誤解を与えてしまうところもあると思うので見直したい。ただ、一方で保護者は子どもがいることで健康への意識が高い等の差もみられるところがある。差がみられる部分は残しつつ、合体しても良いものについては再度精査したい。「座ったり、寝転がったりして過ごす時間の1日平均時間」については、睡眠時間を除いたものである。再度調査票の項目等でわかりにくい部分については、修正したい。

委員長：21 ページの③「喫煙状況」について。「妊婦の喫煙率は4.5%から2.3%に減少した」と概要版やまとめにもあるが、データはどこにあるのか。それがないと、概要版や全体のまとめに入れてもどこを見たら良いのかわからない。

副委員長：概要版を見て「ライフコースアプローチ」は、妊婦から出生して小さい間に食育をしましょうとあるが、一方で高齢者は医療費等でお金がかかる。資源効率費用対効果の配当としては、どちらに重点を置きたいのか。高齢者は絶対にお金がかかるので、そのあたりの按分とか予算的なものは何かあるのか。

事務局：予算的には、高齢期になると介護予防事業でかかってくると思う。今後高齢者が増加していくので、認定率が上がるとその費用もかかってくる。できるだけ小さい頃から規則正しい生活習慣を身に付けて、認定を受けたり介護が必要になったりしないように、元気な高齢者になろうという取組になる。長い目でみることにはなるが、既存の高齢期の医療費は引き続き必要になるが、今後を見据えてそこが軽減できるよう、子育て世帯や妊娠期から取り組んでいく流れになっている。妊娠期の応援プロジェクトも実施しており、妊娠期から栄養状態を良くしてもらうために栄養価の高いお米等も配布している。

副委員長：計画を立てて実行したいと思っても、お金がないからできないということにならないようにしてほしい。

それと、「予備群」の「群」は、「軍」ではないか。

事務局：確認します。

・事務局より、資料「第4次いずみおおつ健康食育計画（素案）（第3章～）」について説明

（質疑応答）

委員長：意見用紙に、主にはキャッチフレーズを書いていただけたらと思う。

2. パブリックコメントの実施について

・事務局より、今後のスケジュールについて説明

3. その他

・事務局より、次回会議予定（令和7年2月頃開催）の報告

閉 会